

社会民主主義 フォーラム

全国 通信

No. 39

2022年
12月23日

〒102-0083

東京都千代田区麹町1-6-9

DIK麹町ビル704号室

TEL : 03-6272-8135

FAX : 03-6272-8136

Mail : forum-cho@iaa.itkeeper.ne.jp

高まるフォーラムの存在意義 一丸となって統一自治体選勝利へ

本通信は全国交流会（12月11日）での挨拶や分科会の内容、座長報告を特集しました。

吉田忠智代表の開会挨拶



来年の統一自治体選に向けた臨戦態勢の中、初めての全国交流会に参加を頂きましてありがとうございます。今日は枝野幸男前代表に記念講演をしていただきます。当時の枝野代表、福山幹事長がいな

ければ私たちはスムーズに立憲民主党に合流することはできませんでした。その後もいろいろとご指導ご示唆もいただきました。あらためて感謝申し上げます。

私は今あらためて立憲民主党に入党して良かったと思っています。30代の時から日本社会党に入党し、その後社会民主党となりましたが一貫して党员として活動してきました。どちらかと言えばその時期反対政党、抵抗政党として訴えてきました。ある意味では居心地が良かった面もありますが、立憲民主党に入党して野党第一党として、現場で政治を動かす、直接政権政党と対峙しながら、安全保障の問題や憲法の問題はもちろん、具体的な個別政策についても現場で議論しながら直接問題点を指摘して、提案をして、そして動くというダイナミズムを実感しております。様々な情報を得ながら、大変いい環境の中で仕事ができていると思っています。

難しさもあります。ロシアによるウクライナ侵攻や北朝鮮の動きをとらえて安全保障が厳しくなったから日本の防衛力を抜本的に強化するという動き。他の予算、国民の生活までも犠牲にして、防衛費を増やすんだという議論に歯止めをかける。そうした役割を立憲民主党は果たしていかなければなりません。立憲民主党の中でもそうした動きに同調的な方がおられるのは

事実で、どのように歯止めをかけ議論をしていくのか、今そのことが問われています。

そして組織に目を向ければ、民主党、民進党、そして立憲民主党になっても、なかなか克服できない課題があります。地方は各都道府県連、そして総支部単位の組織が中心であります。国会議員や自治体議員の後援会中心の党運営からなかなか脱皮できていません。また社民党の時と違って現場の具体的運動と政党活動そのものが有機的に結びついていない現実もあります。多くの皆さんがそうしたことを肌身に感じておられるのではないかと思います。



昨年の総選挙や今年の参院選挙では、それぞれの地域でフォーラムに結集する皆さんに頑張ってくださいました。皆さん方の活動が選挙運動や一人ひとりの当選に大きく貢献したことは間違いありません。そういう報告も立憲民主党の議員の皆さんから受けています。そういう意味では社会民主主義フォーラムの意義はますます高まり、強まっていると感じています。

その観点から午後の分科会においても社会民主主義フォーラムの運営や在り方など積極的な議論をしていただきたいと思います。そして皆様方が懸念されている課題についても積極的に出していただき、有意義な全国交流会になることを祈念して挨拶とさせていただきます。

分科会A 党活動や大衆運動などの交流

■千葉 総選挙の反省から自主的に動こうと努力。参院選ではタウンミーティングなどで各地の労組機関と小西選対をつなぐ努力をしてきた。

■秋田 若手を育て立憲強化へ。各地で学習会を作り労組執行委員に参加を呼びかけている。ここから議員を作るなど長期的構えで取り組む。

■香川 フォーラム議員は全員県常幹に。行政区単位の活動を重視してきた。議員後援会、議員政党に負けないフォーラム組織への強化を。

■青森 県幹事会に11月から非議員も。選挙ではフォーラムと議員後援会との連携が不十分。党の会計年度と党員の登録時期とのずれなど課題。

■宮城 「第2県連」として活動。大衆運動はすべてフォーラムに引き継ぐことができた。ALPS処理水問題で党内にPT立ち上げ取り組む。

■岩手 非議員の役員が一人。ALPS処理水、公共交通問題などで活動。選挙で敗北が続き地域支部が必要ではと、盛岡など3か所に設置。

■山形 旧社民時代の組織をフォーラムとして引き継いでいる。平和センターの諸課題を県連として取り組むことを確認。高齢化が課題。

■福島 20代の会員など成果も。4区では行政区単位で支部を作り非議員の役員も。比例区のたたかいはフォーラムが担い県連は評価。

■埼玉 それぞれの地域の中で信頼を得ることに努力。労組との関係が弱く参院選では産別候補と選挙区候補を結び付ける努力をしてきた。

■神奈川 県にはフォーラム組織はない。社民の支援組織は私鉄が中心となっていくが、旧総評系労組が立憲支持に移り今後どうなるか。

■静岡 立憲との関係は他県と異なる。総支部の在り方についてフォーラム以外の党員から見直しの声も。国会議員との懇談会を要請中。

■島根県

イベント： 立憲民主党タウンミーティングin雲南 地域の暮らしと持続可能な交通

主催： 立憲民主党島根県総支部連合会 雲南支部協議会

日時： 12月10日(土)13:30~15:30

場所： 下瀬谷交流センター 多目的ホール

問合せ： 0854-43-6298

定員70名 参加費無料 出入り自由 学生歓迎

過疎地の鉄道は存続の危機にあり、雲南市・奥出雲町を走るJR木次線の存続が心配されています。そこで上岡直美 環境経済研究所代表を講師に迎えて、持続可能な交通について理解を深めるタウンミーティングを開催いたします。

■富山 私たちが移行し県連ができた。党運営だけで終わっていてフォーラムの運動が作れず「何のためのフォーラムか」という声がある。

■島根 党の総支部を4地域で立ち上げ。大会の代議員制、非議員の役員選出など党内で議論中。現在タウンミーティングを行っている。

■愛媛 19年県議選で初当選。会派は社民と一緒に。総選挙では人間関係作り、参院選では野党共闘など様々経験。党員拡大と共闘に力を。

■大分 共闘会議などはすべて立憲が引き継ぎ。党員登録は年一回の「上書き」ではなく、離党届が出るまでは党員という制度に改めた。

■宮崎 防衛費倍増など間違いのない運動提起を。大見出しで「容認」と書かれ心配の声が寄せられている。党内でもしっかり主張を。（全体会での発言を掲載）

分科会A 高田良徳座長のまとめ

各地で立憲に合流した状況が違います。私たちが立憲に入ったということの認知から始めなければならない県もあります。逆に富山のように、今まで立憲県連がなかったところは、フォーラム自身が県連を担わなければならない、そうするとフォーラムの存在意義は何かということになる、そういう矛盾というか現実があります。



いろいろな課題の一つに、常任幹事会の中には非議員は入れないのかという課題があります。規約には書いてありませんが、どこの県連もそういう空気です。しかし努力され非議員の方も常幹にさせた、その壁を破ってきたという報告が何県かからありました。

素晴らしいと思ったのは、大分の報告です。党員はやめるときに離党届けを出す、一旦入党したら、離党届を出すまでは党員という県連独自の制度を作ったという内容です。今の制度は年一回登録し直すという変な制度で、これはすごいと非常に参考になりました。

護憲や原水禁など平和フォーラム等の活動を、どれだけ引き継げたのかという課題です。今まで平和フォーラムは地域含めて社民党とやってきた、これからは立憲とやってくださいとは簡単にいかないのですが多くのところで努力されていて、多くのメンバーが合流したところでは、できていると思いました。

支部の問題はすべて共通し、議員政党と組織政党のハイブリッドという場合、支部もきちんとした位置づけが必要だというのが多くの人の気持ちです。これに



つについては立憲の議員からも出ているという報告がありました。現状、任意の支部はどれも社民フォーラムの会員です。現状はそれでいいので、これを広げていくことが大事だと思います。すぐにはできないのはその通りだけど、すぐに動かないと、永遠にできないことも事実です。

学習活動の重要性も出されました。集まれるレベル、集まれる地域で学習活動を行い、そこに組合員や一般の方々にも来てもらえるような幅広の学習会が必要だと強調されました。社民フォーラムの高齢化という事情があり特に若い人たちの参加が重要です。

次に県連の大会です。香川でも1500人いますから、1500人の大会を今年やりましたけど、そのうちの3分の2は一生懸命委任状を集めるという変な作業に追われました。それを克服するには代議員制度が必要だと多くの方から報告があったところです。

最後に社民党との関係ですが、国政選挙ではほとんど候補者を出すことはないですから、選挙での共闘運動で仲間を作っていくという報告がありました。ぜひいっしょにやるというイメージで取り組みましょう。

分科会B 党や自治体現場の政策の交流

■富山 ほぼ全員の議員が県の常幹。エネルギー原発問題など「全面的に」とはならず平和センターを通しての取り組みになっている。

■宮城 ALPS処理水など業界にヒヤリングしながら活動。地域は護憲平和センターで病院統廃合や上下水道の民営化問題に取り組む。

■秋田 フォーラムでは安保政策、隠れ教育費問題などで学習会。党では初めてタウンミーティングで障がい者問題など取り組んだ。

■山形 原水禁、脱原発などは党で担う。「発達障がい」の子どもについて「合理的配慮を高校受験にも適用を」と、親の会から要望。

■富山 公立保育所での子ども虐待。最低限の保育士

数、非正規が増え、時間に追われ子供の成長に向き合う余裕がなくなっている。

■東京 給食費の無償化を自治体選で訴えていく。インクルーシブ教育は、まずは35人学級、そして30人など少人数学級編成が課題。

■千葉 保育士へのハラスメント問題に取り組む。生活困窮者、障がい者、難民支援などマイノリティ的課題の訴え方、掲げ方をどうするか。

■東京 マイノリティのために働きたいと考えているが、「マジョリティのための政治じゃないのね」と言われそうで、どう訴えていくか。

■福島 ALPS処理水の放出問題が大きな課題に。毎月1回、安全だというチラシが新聞に折り込まれる。来年3月、4月に放出か。

■青森 病院の不払い賃金など市議会で問題に。県議会で県を最終処分地にさせない意見書。立憲は電力出身の一人が欠席で残りは全員賛成。

■愛知 高齢者の独居問題。動けなくなると介護プランがなく施設へ。本人は在宅希望で、病院との連携を模索し提案。本人から感謝された。

■千葉 立憲合流のメリットはスケールメリット。現場、市、県、国とつながりながら政策として作り上げられる。若い県議選候補も誕生。

■島根 身近な具体的な課題から政策を。地元企業に希望退職問題が起きている。働いている人の声を聞き市議会で取り上げようと努力。

分科会B 羽田圭二座長のまとめ

枝野前代表から講演がありましたが、立憲民主党の政策や目指す社会について、だいぶ整理され理解も進んできたのではないかと思います。



一つは高齢者の独居支援についてです。これまでは施設と介護、在宅をつなぐと言ってきました。しかしどうしても介護の度合いが必要になってくると施設に、という話になってきます。しかし在宅で暮らし続けたいとなつて、地域医療との連携が始めています。今までは施設と介護、在宅をつなぐ形でしたが、今は在宅と地域医療をつなぐと変化してきている。地域医療との連携がなければ、在宅で暮らし続けることができないこと、そうした点をこの報告から学びました。

教育の関係では、インクルーシブ教育、「発達障がい」の話が出されました。特別支援学級の全校への設置など東京では進んでいます。往々にして教員不足や

多忙化の問題が置き去りになってしまいます。担任はとて 30 人以上の子どもの見る事ができない。少人数学級や正規職員増などしっかり取り組んでいかないとインクルーシブ教育はなかなか実現できません。いま不登校特例校とか、フリースクールを作っているところもあります。子どもがそれだったら行きたいと、そうした選択肢を認めることが重要になっているからですが、ここでも教員不足や多忙化の問題と切り離せません。

エネルギー政策をめぐって電力関係の方々と党内で対立することがあります。方向性を出さざるを得ない場合、やはり雇用の問題が重要だと思います。エネルギー政策の転換とは原発以外の発電のことであり、それらを合わせて将来の雇用の在り方を議論していくことが必要だと思いました。

支え合い分かち合うと言う場合、結局税の問題に行きつきます。社会保障を普遍的な支援に置き換える場合、富裕層の所得税とか企業の法人税の税率の見直しとか、これらを最優先にして、その上で消費税を考え

るということだと思います。選別主義あるいは普遍的支援などをめぐる議論とともに私たちも税の在り方をしっかり考えなければなりません。

最後に、立憲に移ってスケールメリットの良さが出ているという報告です。地域から押し上げた政策が県議会に行き、また市議会に戻ってくる、その過程で政策がより広がっていきます。これは立憲でしかできない、残念ながら社民党ではできなかったことで、合流の大きな成果として出ていると思いました。



情勢を固定的にとらえないこと 今後とも情報交換、交流を強めよう

吉川はじめ衆議院議員のまとめと閉会挨拶



枝野前代表から問題提起を受けました。私自身は基本的に今の日本の社会の見方というのは、ほぼ同じではないかと思いました。今の社会を分析し、あるいはその実態を拾っていく中で、必要な政策とか目標がおのずと定まってくる、そうした意味で私自身は枝野さんの話はそんなに違和感なく聞いたのではないかと思います。

敵基地攻撃能力や防衛費倍増については、前提条件から反論・議論しなければならないと思います。北朝鮮のミサイル発射や中国の台頭など、そういう様々な情勢をア priori に、固定さ

れたものとして、だから敵基地攻撃能力が必要だ、防衛費の倍増だと、こうした議論に誘導しようという流れが非常に強くあるからです。

北朝鮮の動向を見れば、一直線に脅威が増大してきたわけではありません。トランプ政権が良いとは言いませんが、ある程度対話が進んだ際、北朝鮮のミサイル発射はかなりの期間止まっていました。つまり情勢を固定されたものとして見てはならないということです。だから私たちは、今の傾向は変わらずに続いていくものなのか、逆にその傾向を変えていくには何が必要なのか、そして敵基地攻撃には当然その限界があるわけですから、その限界がどこにあるのかなど、こうした点を含めて話していくことが必要だと思います。

防衛費倍増については、自民党の中になかなか不満がたまり、特に財源の問題でもめるのではないかと思います。参院選以降の旧統一教会問題のストレスが、それがこの問題をきっかけに噴き出すのではという話も漏れ伝わっています。通常国会では一大論争にしていかなければなりません。こうした点を含めて吉田さんとも連携し、党内議論が変な方向に向かわないようにしっかりとやっていきたいと思っています。

分科会では各地での頑張りの報告を聞かせて頂きました。私たちが合流する際に議論した課題が、目の前に存在しているというのが今の状況だと思います。昨年の総選挙は、強いと言われていた議員でも、比例復活だとか、小選挙区でもまさにぎりぎり勝ち切ったという状況でした。そうした中、今までのやり方だけではダメなのではという気分が醸成されているのは事実です。今後も皆さんと密に情報交換しながら進んでいきたいと思っています。